

NO. 6 事業名 中山間地域総合整備事業（国補）

箇所・地区名 富士川^{ふじかわ}北部^{ほくぶ}

1. 事業説明シート

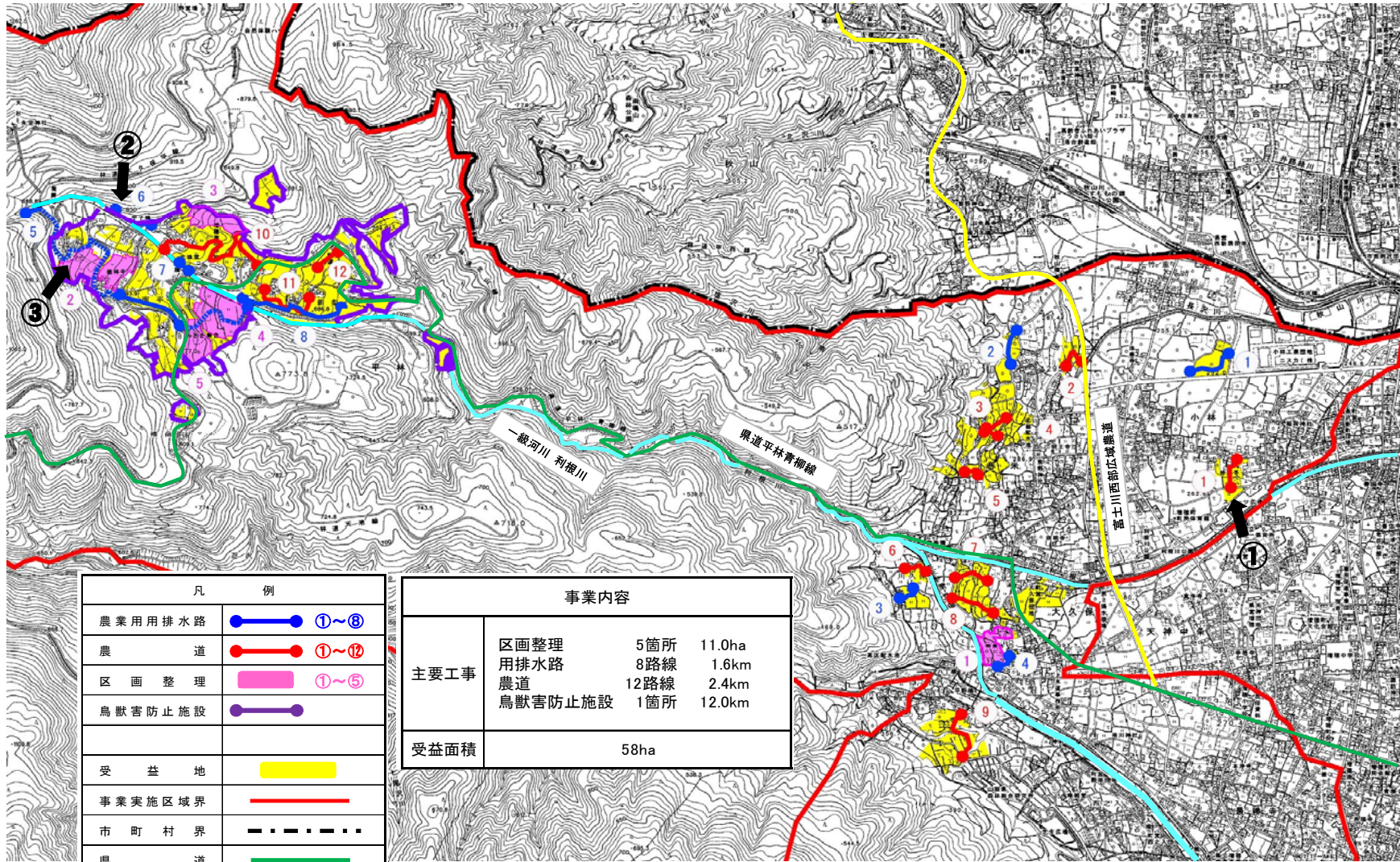
事業名	事業箇所	地区名	事業主体																		
中山間地域総合整備事業 (国補)	南巨摩代郡 富士川町 最勝寺、春米、平林	富士川北部	山梨県																		
<p>(1) 事業の概要</p> <p>①課題・背景 本地区は、富士川町の北部に位置する中山間地域で、水稻や果樹を中心に営農されている。近年では地元酒造会社と協力した酒米の栽培や、棚田地域での地域住民による棚田の保全活動やオーナー制度等の都市交流も行われており、地域農業に対する住民の意識は高い。 しかしながら、それらの活動の主体となる農業者は高齢化しており、基盤整備の遅れや鳥獣被害等による営農意欲の減退から担い手が不足しているのが現状である。 一方、町は増穂IC付近に農産物直売所を併設する道の駅「富士川」を建設中で、これを核とした農業振興の推進すると共に、棚田のオーナー制度や体験農園等の都市交流の推進も期待される。 こうした状況を背景に、農業振興策を推進する上で必要となる生産基盤を整備し、農業の効率化や生産性の向上を促すことで、地域の活性化を図るものである。</p> <p>②整備目標・効果</p> <p>□主要目標 ○中山間地域等の農村生活・生産機能の向上 ・農業所得の増加額 2,240千円/ha \geq 1,203千円/ha</p> <p>□副次目標 ○集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 ・対象路線の幅員4m以上道路延長率 80% \geq 79.5% ※ ○農業用排水能力の向上 ・施設老朽度 (耐用年数30年) - (経過年数46年) = -16年 \leq 0年 ※ ・排水能力向上率 (計画排水能力2.19m³/s) \div (現況排水能力1.92m³/s) = 1.1 \geq 1.0 ※ ○鳥獣被害の軽減 ・被害軽減額 769千円/ha \geq 490千円/ha ※</p> <p>□副次効果 ○遊休農地の解消 (※評価基準値) ○農地の保全 ○重要プロジェクトとしての位置づけ (やまなし農業ルネサンス大綱)</p> <p>③目標達成の方法 区画整理 5箇所、用排水路 8路線、農道 12路線、鳥獣害防止施設 1箇所</p>		<p>④全体計画 (年度別整備内容) (事業費)</p> <table border="1"> <tr> <td>平成26年度</td> <td>用排水路 鳥獣害防止施設</td> <td>100百万円</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>区画整理 農道 用排水路 鳥獣害防止施設</td> <td>300百万円</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>区画整理 農道 用排水路 鳥獣害防止施設</td> <td>300百万円</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>区画整理 農道 用排水路 鳥獣害防止施設</td> <td>400百万円</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>区画整理 農道 用排水路</td> <td>300百万円</td> </tr> <tr> <td>平成31年度</td> <td>区画整理 農道 用排水路</td> <td>300百万円</td> </tr> </table> <p>□既整備内容・期間・事業費 ・該当なし</p> <p>(3) 中・長期計画等の位置付け やまなし農業ルネサンス大綱 (H19~H28) 第1次富士川町総合計画 (H19~H28)</p> <p>(4) 事業位置等図</p>		平成26年度	用排水路 鳥獣害防止施設	100百万円	平成27年度	区画整理 農道 用排水路 鳥獣害防止施設	300百万円	平成28年度	区画整理 農道 用排水路 鳥獣害防止施設	300百万円	平成29年度	区画整理 農道 用排水路 鳥獣害防止施設	400百万円	平成30年度	区画整理 農道 用排水路	300百万円	平成31年度	区画整理 農道 用排水路	300百万円
平成26年度	用排水路 鳥獣害防止施設	100百万円																			
平成27年度	区画整理 農道 用排水路 鳥獣害防止施設	300百万円																			
平成28年度	区画整理 農道 用排水路 鳥獣害防止施設	300百万円																			
平成29年度	区画整理 農道 用排水路 鳥獣害防止施設	400百万円																			
平成30年度	区画整理 農道 用排水路	300百万円																			
平成31年度	区画整理 農道 用排水路	300百万円																			
<p>(2) 整備内容と整備量</p> <p>①整備内容 区画整理11.0ha、用排水路1.6km、農道2.4km、鳥獣害防止施設12km</p> <p>②整備期間 平成26年度~平成31年度</p> <p>③総事業費 約17億円 (国費9.4億円(5.5/10)、県費5.1億円(3/10)、市費等2.5(1.5/10))</p>																					

2. 評価シート

<p>(1) 公共関与の妥当性 (行政が行うべき事業か) (妥当・妥当でない)</p>	<p>(5) 整備手法の有効性 (妥当・妥当でない)</p>
<p>(理由) 本地区の整備は、食料・農業・農村基本法に位置づけられている農業の持続的発展、食料の安定供給、多面的機能の発揮に資するものであり、行政が行うべきものである。</p>	<p>(理由) 農業生産条件が不利な農業生産基盤を整備することで、営農条件が改善されるため、地域農業の振興には最適な事業であるとともに、都市交流を促進するための整備により、有効的な農地の活用を図るものである。 また、整備内容は、施設の長寿命化やコスト縮減を考慮した計画としている。</p>
<p>(2) 事業執行主体の妥当性 (県が行うべきか) (妥当・妥当でない)</p>	<p>□他の整備手法の有無 〈有・無〉</p>
<p>(理由) 本地区の整備は、農業生産基盤を総合的に整備して農作業の効率化や農業経営の安定化を図るものである。 また、「土地改良法施行令」第50条5項の県営事業で申請すべき事業要件にも合致している。このため県が主体となって行うべきである。</p>	<p>(状況) 中山間地域のような生産の条件不利を改善するためには、本事業の他に適した事業はない。</p>
<p>(3) 経済効率性 (妥当・妥当でない)</p>	<p>(6) 環境負荷への配慮 (妥当・妥当でない)</p>
<p>(理由) ・費用(C)=17.3億円 (内訳) 区画整理3.6億円 農道6.9億円 用排水路3.0億円 鳥獣害3.8億円 ・便益(B)=24.2億円 (内訳) 作物生産効果13.3億円 品質向上効果0.2億円 営農経費節減効果2.1億円 維持管理費節減効果△0.5億円 走行経費節減効果8.5億円 災害防止効果0.1億円 観光農園転換効果0.3億円 果樹地域保全効果0.2億円 ・費用便益比 (B/C) = 1.39 ・費用便益比 (B/C) は国の採択基準 1.0 を超えている。</p>	<p>(理由) 本事業は中山間地域における基盤整備であるため、大規模な開発による自然環境の改変は極力避け、既存施設の改修を中心とすることで、環境への負荷を軽減している。 区画整理や農道工事では、土の切り盛り量を少なくするなど、現状の地形に応じた計画とする。 なお、工事による生態系、景観等への影響があると判断された場合には、回避、代替、低減などを踏まえた対策を講ずる。</p>
<p>(4) 事業実施・規模の妥当性 (妥当・妥当でない)</p>	<p>(7) 事業計画の熟度 (妥当・妥当でない)</p>
<p>(理由) 地区内の営農条件改善に必要な整備量としている。 □同等施設等(計画を含む)の有無 〈有・無〉 (状況) 新設若しくは老朽化した既存施設の改修であり、機能を代替する施設はない。 □必要整備量の根拠 (状況) 区画整理： 区画の整形、集団化、担い手への集積等農作業の省力化を図るためのもので、作業効率が悪く農地を対象とした。 用排水路： 老朽化により用水の安定確保や排水能力に支障を来している施設を対象とした。 農道： 農作物の運搬に必要な幅員が確保されていない農道を対象とした。 鳥獣害防止施設： サル、シカ、イノシシの被害発生農地、被害発生が予測される農地を対象に必要な規模・規格の防止柵を計画した。</p>	<p>(理由) 本事業は地域住民が参画したワークショップによって合意された施設を整備対象としている。 また、事業を進めるうえで地域間の連携や合意形成が重要である。このため、地区内の5地区(最勝寺、大久保、小林、春米、平林)では地区代表者、農業委員、農業者代表で構成する「富士川北部中山間地域総合整備事業推進協議会」を立ち上げ、円滑な事業推進を図るなど地元の熟度は高い。</p>
<p>《総合評価》 (妥当・妥当でない)</p>	
<p>(理由) 7項目全て妥当と評価されることから、実施が妥当と判断する。</p>	

3. 添付資料シート(1)

中山間地域総合整備事業(生産基盤型) 富士川北部地区 計画平面図



添付資料シート（2）



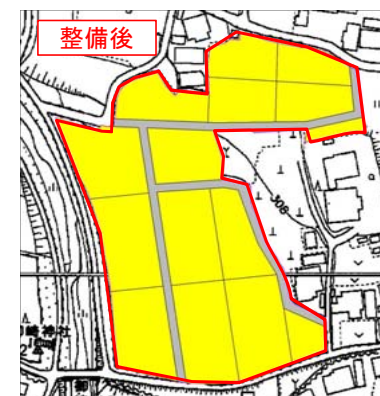
①道路幅が狭小な上、未舗装のため農産物の運搬の支障となっている状況。



②取水部が未整備のため、用水供給が困難な農業用水路



③シカの食害により被害を受けたそば畑。



不整形で狭小な農地を解消する区画整理のイメージ